



学生提案科目「私たちが学びたいこと」2021年度

予測される災害に備えよう ～For Others 命を守る～

フェリス女学院大学 防災プロジェクトチーム

フェリス女学院大学で開講されている基礎教養・総合課題科目の中に、学生からの提案でつくられる「私たちが学びたいこと」という授業があります。授業の内容には、フェリス生の関心が直接的に反映され、学年・学部・学科を問わず誰もが履修することができます。今年度は、前期(4月～7月)に「防災」をテーマとして、15週に渡って履修学生一人ひとりが学びを深めました。今回の街マルシェでは、本授業を通して得られた学びの成果を発表します。

授業の概説

「災害」には、地震や津波、台風や洪水などの風水害、竜巻や火山の噴火などがあります。それらの「災害」に備えるため、「防災」に対する意識を持つことは非常に大切です。本授業では、「防災の重要性」にフォーカスし、多様な視点から防災について考えを深めました。美しい自然に囲まれた日本で生活する私たちは、自然災害について正しい知識を身につけ、防災意識を高め、そして備える必要があるという問題意識を持ち、全15回の授業で学びを深めました。

近年、日本では豪雨や台風などの自然災害が頻発し、各地に甚大な被害がもたらされています。また、首都直下型地震や南海トラフ地震の発生も予測されており、広い範囲での被害が想定されています。今、私たちにできることは、過去の災害について知り、正しい知識を身につけ、自分が取るべき行動について考えることです。正しい知識を身に付けることは、自分の命だけでなく、ときには他者の命も守ることに繋がります。

本学には「For Others」という教育理念があり、「他者のために」という意味のみならず「他者とともに」という意味も持っています。災害においては、自分の身を守ることはもちろん、他者を気遣い他者とともに避難行動や防災行動をとることが必要です。本授業では、家族との連絡方法、高齢者、外国人の避難、近隣住民との協力についても考えを深めました。

授業を通して、過去に発生した東日本大震災や関東大震災について学んだほか、実際に横浜市や緑園都市で防災・減災に取り組んでいる方をゲストスピーカーとしてお招きし、地域やまちにおける対策について学びました。これらの学びを経て、学期末には「未来につながる防災」について考えを深め、発災後に自分に何ができるのか、何をすべきなのかを少人数のグループで話し合いました。災害時の行動について具体的にイメージしてみることで、個々の防災意識の向上につながりました。

本プロジェクトについて

全15回の授業を終えたあと、約60名の履修者の中から有志を集い、「フェリス女学院大学 プロジェクトチーム」を結成しました。今回の緑園街マルシェでの展示は、当プロジェクトでの最初の活動となります。この活動を通して、授業で学んだことや防災に関する情報について地域に向けて発信するとともに、皆さまに「防災の重要性」についてお伝えしたいと考えております。私たちが作成したリーフレットやポスター、展示内容が、少しでも皆さまのお役に立てれば嬉しいです。



今回の街マルシェでは、「マモル」をテーマにポスターの掲示やリーフレットの配布、非常用持ち出し袋についての展示を行います。

活動テーマである「マモル」には、自分の「命」そして他者の「命」を「守る」という意味が込められており、カタカナの「マ」を命や心、そして愛を表現する記号「♡」に模しています。

街マルシェでの活動を通して、地域の皆さまとともに「防災」について考えを深め、一人ひとりが命を「マモル」意識を高められるよう、学びの成果の発表に加え、情報発信を行います。

授業内容紹介

まちと防災

学外からゲストスピーカーをお招きし、国や自治体、民間の企業や団体が講じている対策について伺いました。現在、これらの組織から発信されている情報を知らない、あるいは活用していないという人がほとんどだと考えられます。意識的に調べ、必要な情報がどこに掲載されるのを知っておくことで、混乱する災害時の備えになると知りました。

防災は、「自助」・「共助」・「公助」の3つの要素から成り立ちます。国、横浜市、緑園都市で防災・減災事業に取り組んでいるの方々から話を伺う中で、3つの要素それぞれが上手く作用しあうことで、被害を最小限に抑えることができると分かりました。「公助」で追いつかない部分は、「共助」・「自助」で補う必要があります。近所付き合いが希薄になりがちな現代社会ですが、「共助」の実現には日頃からの地域交流が必要不可欠です。挨拶など基本的なことに加え、自治体やボランティア団体が主催する防災のイベントに一度参加してみるといった積極的な行動も、地域を知ること、自分自身のことも知ってもらうことに繋がります。

★国の取り組み

国土交通省水管理・国土保全局 防災課 災害対策室長 田中克直 氏

- ◎首都直下地震の対策
 - ①事前の備えを加速し、直接的な人的被害を最小化する
⇒住宅・建物の耐震化、避難場所の確保…
 - ②街中の制限された空間に集中している人々の安全対策
⇒公共交通機関の耐震・避難対策、エレベーター閉じ込め対策
 - ③災害時、交通麻痺がおこった際の緊急輸送ルートの確保
⇒首都高速道路、航・空路の活用
- ◎土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域の設定
- ◎防災・減災、国土強靱化
- ◎ハザードマップポータルサイトの開設

★横浜市の取り組み

横浜市政政局総務部統計情報課長 入江佳久 氏
特定非営利活動法人 横浜ブランナーズネットワーク 杉野 展子 氏

- ◎地域に防災知識を広める
防災イベントの開催、防災訓練の工夫、女性の被災生活の支援
- ◎地域の特性理解
地域の地図作り、まち歩きの実施
- ◎安否確認ができる関係作り
名簿・防災カード作成、要援護者の避難のための情報カード
日ごろからの関係づくり(防災グッズの配布と交換)
- ◎防災の担い手を増やす
若い年齢層を対象とした防災イベント、企業や施設と連携協定
- ◎災害時要介護者支援の取組
要援護者の把握、地域の支援体制の確立

★泉区の取り組み

緑園6丁目自治会 江尻 哲治 氏

- ◎泉区災害ボランティア連絡会、支援センターの設置
→ 行政・社協(ボランティアセンター)・NPOの3者連携
- ◎指定避難所の解説
- ◎災害時要援護者対応の取組み

- ◎緑園6丁目
- ◎地域支え合い通信発行
- ◎対象者の把握、安否確認訓練

泉区災害ボランティア連絡会の取り組み

- 災害発生時に設置される災害ボランティアセンターの運営
- 物資・食料支援など被災者への支援活動
- ブロック内の情報交換会、訓練の相互参加
(Cブロックは、保土ヶ谷、旭、泉、瀬谷の4区)
- HP、Facebookを活用した情報発信
- ボランティアの予約制、受付でのQRコード活用、ニーズやルートで電子地図活用 など

国や地域単位で、過去の災害の教訓を踏まえたさまざまな取り組みが行われています。

泉区では、災害ボランティア連絡会のほか、地域の「共助」の取り組みとして、平常時からの顔合わせや見守りなどで良好な関係を作り、災害時にその方々の安否確認、避難の支援や災害後の見守りなどをする「地域支え合い活動委員会」を設けています。災害時の被害を減らすためには、日頃からの備え(自助)と地域との支え合い(共助)が必要不可欠です。これらの取り組みを交流の場として活用し、災害時に受援力を高めた行動をとることができるよう、参加してみたいかがでしょうか。

学生の感想

今後の災害に備えていくためには、まず自分の住む場所の地盤や地形について知るのが重要だと感じました。

コロナ禍においても、ICT化が進むことで被災者へのボランティア支援が行き届きやすくなると学びました。

泉区ボランティア連絡会が目指す「漏れやムラのない支援」は大切だと思います。



それぞれの生活状況により、必要になるもの・情報は異なるため、自分の命を守るためには十分な備えが必要です。

国土交通省や横浜市のサイトでは、「マイ・タイムライン」を提供しています。

ハザードマップを用いて危険な場所を確認し、マイタイムラインを作成してみてください。

地域の防災情報が確認できるサイト

横浜市HP
帰宅困難者一時滞在施設、災害時給水所マップ、
防災・災害トップページ(横浜市泉区)

横浜市行政地図情報提供システム、

【NHK】
警報・注意報 避難情報やハザードマップ(横浜市泉区)、

泉区災害ボランティア連絡会(HP、Facebook)、
緑園ネット(Facebook)、
RCA(緑園都市コミュニティ協会)

スマートフォンをお持ちの方は
こちらから→

